

氏名： 頼住 光子  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系  
職名： 准教授  
学位： 博士（文学）（1994 東京大学）／ Ph.D.in Literature  
専門分野： 日本倫理思想史、仏教思想、比較思想、宗教哲学  
E-mail： yorizumi.mitsuko@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

道元／親鸞／比較思想／正法眼蔵／仏性

Dogen / Shinran / Comparative Thought / Shobogenzo / Buddha Nature

#### ◆主要業績

総数（9）件

- ・「道元と親鸞の「仏性」観をめぐる比較思想的探究」&O0a;（『「いのち」の流れ』峰島旭雄先生傘寿記念論文集編集委員会編、北樹出版 2009年8月10日 pp.83-98 依頼原稿）&O0a;
- ・「道元における「さとり」と修行??『正法眼蔵』「現成公案」巻をてがかりとして&O0a;（『日本研究所紀要』第4号 神田外語大学日本研究所、2009年10月20日 pp.27-62 依頼原稿）&O0a;
- ・“On Dogen's Thought of Religious Practice and Enlightenment -An Attempt to read Genjo-Koan of Shobo-genzo”&O0a;（『大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成21年度活動報告書 学内教育事業編』お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 2010年3月31日 pp.32-36 査読無）&O0a;
- ・「聖徳太子の片岡山説話についての一考察」&O0a;（『大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」平成21年度活動報告書 学内教育事業編』お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 2010年3月31日 pp.237-244 査読無）&O0a;
- ・「親鸞における「自己」と「他力」?その連続性と非連続性をめぐって」&O0a;（『人文科学研究』第6巻 2010年3月30日 pp.29-41 査読有）&O0a;

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

頼住光子の2009年度の研究内容は、以下の4領域からなり、その研究成果の一部については、学術雑誌、学術講演、研究会口頭発表等において発表された。

日本仏教の思想的研究 道元や親鸞などの、仏教思想家の著作を厳密にテキストクリティークし、その思想構造を探求し、日本仏教の独自性と普遍的意義とを追及する。

日本近代思想に関する研究 和辻哲郎など日本近代思想についての再検討。とくに「超越」「自己」「非還元主義」などをてがかりとして、日本近代思想のもつ意義を解明。

比較思想学、比較宗教学による研究 日本の思想や宗教を考える上で、比較の手法を使い、他のアジアの思想（中国、インド）、ヨーロッパ思想との比較対照において、日本の思想や宗教の特徴を解明。

道德教育、宗教教育に関する理論的研究 日本人の道德性や宗教性を解明し、それらに適合する道德教育や宗教教育を行うための理論的基盤を明示。

Mitsuko Yorizumi's study in 2009 consists of following four spheres.

A Study of the thought of Japanese Buddhism A Study of Dogen and Shinran and so on.

A Study of Japanese Modern Philosophy A Study of Teturo Watuji and Ryosen Tsunashima and so on.

A Comparative Study of Japanese and Western or Asia Thought and Religion A Comparative Study of Japanese and Western Mysticism and so on.

A Study of Japanese Moral Education Especially a Study of Japanese Religious Education in Public Education.

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

学部、大学院（博士課程、修士課程）における講義とゼミを行い、日本倫理思想史、宗教哲学、比較思想学について、入門、基礎、応用的教育を行った。

学部、大学院（博士課程、修士課程）の学生の、日本倫理思想史、宗教哲学、比較思想学について、論文指導を行った。特に、博士論文執筆中の学生、学会誌投稿論文執筆中の学生に対しては、メールなどを使って、懇切丁寧な指導を行い、内容的なアドバイスをや、論文としての体裁を整えるための添削を行った。

大学院G Pの運営の中核を担う教員として、大学院副専攻の運営に尽力するなど、各種関連事業に携わった。また、その一環として開催された外国人研究者と大学院生とのジョイントゼミを二つ企画開催し、その場で発表する学生の指導を行った。（本学開催の国際日本学コンソーシアムの日本思想部会と台湾国立政治大学と学術交流）

？ 大学院教育の実質化のために、博士課程学生に、ゼミ等で指導を行い、また論文指導を丁寧に行うだけでなく、TA、RAとして各種の学術的活動を行えるよう指導した。

Mitsuko Yorizumi' s education in 2009 consists of following four spheres.

Seminar and Lecture of Japanese Philosophy and Buddhism for Undergraduates and graduates.

Guidance of theses and papers for Undergraduates and Graduates.

？ Guidance of Undergraduates" Publication.

Guidance of various academic acts for Graduates and Undergraduates.

## ◆研究計画

将来の研究計画としては、東洋の哲学とりわけ仏教思想の現代的意義を探求する予定である。特に、現在の中心的研究対象である道元にしても親鸞にしても、従来の研究は、宗門の護教的研究が主流を占めており、そのような中で、文献学的な正当性と思想史的背景を踏まえた思想研究を行い、東洋の哲学の普遍的意義を探求したいと思う。そのために、現在、個人として行っている研究と平行して、現在進行中の比較思想的見地からの国際的プロジェクトを推進したと考えている。

## ◆メッセージ

私どものゼミにおいては、日本の（場合によっては、アジアやヨーロッパも含めて）古今の思想的な文献を正確に読むことをまず訓練します。それを通じて、人間とは何か、また自己とは何かという問題を、深く広く考えて行きたいと考えております。

特に、現在、私のゼミにおいて中心的に探求しているのは、仏教哲学など、東洋の思想伝統の中に、普遍的なものでありつつ、西洋近代の要素還元主義的な発想からは看過されがちであった関係主義的発想、非実体的発想をさぐり、それをてがかりとして、「自己」「超越」などの概念を再検討することです。それによって、従来、無自覚のうちに固定的なものとして捉えられがちであった「自己」概念を解体し、諸関係の結節点として捉えるという非要素還元主義的「自己」観念を明らかにするとともに、さらに、神として実体化された「超越」（いわゆる西洋的超越概念）に対して、それ自身のうちにすべてを成り立たせる「場」としての超越概念を、東洋の思想、宗教のうちに捉えたいと考えております。